

## 令和7年度 第2回 イベントディレクタ認定試験 講評

### 1. 実施概要

- ・ 実施期日 令和8年3月10日～20日
- ・ 単一選択式
- ・ 受検者 10名
- ・ 認定者 8名

### 2. 認定点

- ・ 認定点 68点（100点満点）
- ・ 最高点 96点
- ・ 平均点 77点

### 3. 総評

回答にあたっては、規則やガイドラインを正しく理解していることが求められる。競技規則や地図図式は継続的に改正が行われているので、ED は常に知識を更新することを心掛けなければならないが、学習教材や競技規則を読みこんでおらず、経験則だけで判断しているのではないかとされる受検者もいた。また、毎回の試験において、誤答の多い設問は傾向が類似しているため、過去の試験の講評も勉強の参考にしてもらいたい。なお、これまでは80点を認定点としていたが、設問表記や規則改正により曖昧さが残っている設問もあり（たとえば設問16や18）、認定点を引き下げた（今後、設問の妥当性の精査を行う予定）。

### 4. 設問のポイント解説

以下に、誤答が多かった設問のポイントについて解説する。

設問2： インストラクターは初心者にオリエンテーリングを指導するための資格であるが、ナビゲーション・インストラクターは、あらゆるアウトドア活動に欠かせない一般的なナビゲーションスキルを指導するための資格である。

設問7： ロングディスタンスは他の競技よりも持久力が要求されるが、持久力を競うこと種目ではない。

設問8： チームとして同じレグを走るようにすることは必要であり、かつチームでの走区のパターン（チームAは1走:長→2走:短→3走:長、チームBは1走:短→2走:長→3走:長など）は同じでなければならない（上記の例は不適）。

設問14： プリテン1は開催予告であり、イベントアドバイザーの承認は必ずしも必要ではない。

設問16： 複数のクラスに同じコースを割り当てると、より時間のかかりそうなクラスを先に出走させると、あとからスタートするクラスの参加者が先にスタートした参加者に追いつきバンキング（いわゆるバック状態）が発生しやすく、公平性が低下するため、原則として、優勝設定時間の短いクラスからスタートさせる。

設問21： ISSPrOMとISOMは、同じ地図記号も使用されているが、記号が追加されただけではない。

設問24： 地図表記には最小寸法が決められており、ISSPrOMの場合、通過可能箇所は幅1mm以上で記載する。

設問34： 地図記号が異なっても、トレイン内で明確に異なって見えない場合には、60m以上離して設置する必要がある。

設問47： 裁定委員会に当事者は出席できない。必要に応じて、イベントアドバイザーが当事者から聞き取りあるいは資料の提出を求めることはできる。